

木が、 人を 育てる

「木育」という言葉を「存じ」ですか。木育は、北海道で検討された『木育プロジェクト』（平成16年（2004年）により提案されました。北海道庁では次のように示されています。

「木育とは、子どもをはじめとするすべての人が『木とふれあい、木に学び、木と生きる』取り組みです。それは、子どもの頃から木を身近に使っていくことを通して、人と、木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育むことです」

心を育てる「木育」

木に関する知識を学ぶだけが木育ではありません。木で作る表現活動を通して、豊かな自然が育む命のすばらしさを知り、感じて、助け合うことや感謝することを学べるとされています。



八幡中学校の授業

聴きたい！現場の声

授業で子どもたちに伝えたいこと

子どもたちに話をするにあたって、「窓を開ければ（特に清水地域は）スギやヒノキの木が当たり前前に生えている。それは君たちの先代の人たちが植えてくれた資源で、身近にあるのがとてもありがたいことなんだ」ということをまず伝えるようにしています。

木は利用してこそ価値が上がるもの。もっと使えるものがある、ということをご皆さんに知ってもらいたいです。



清水森林組合
近藤 真功 さん